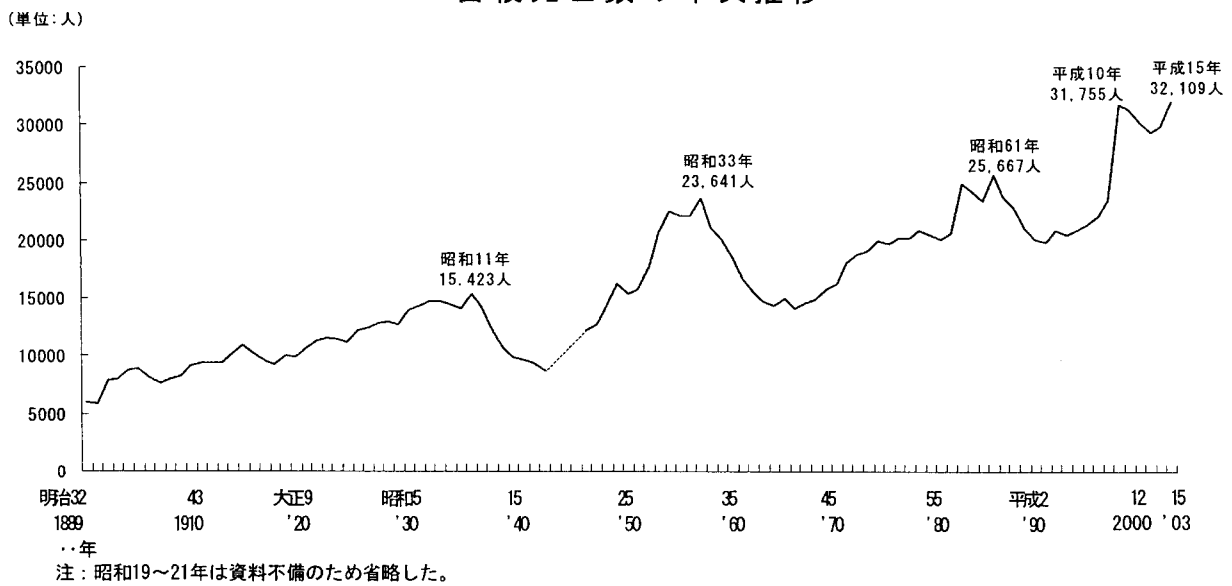


自殺死亡統計のポイント

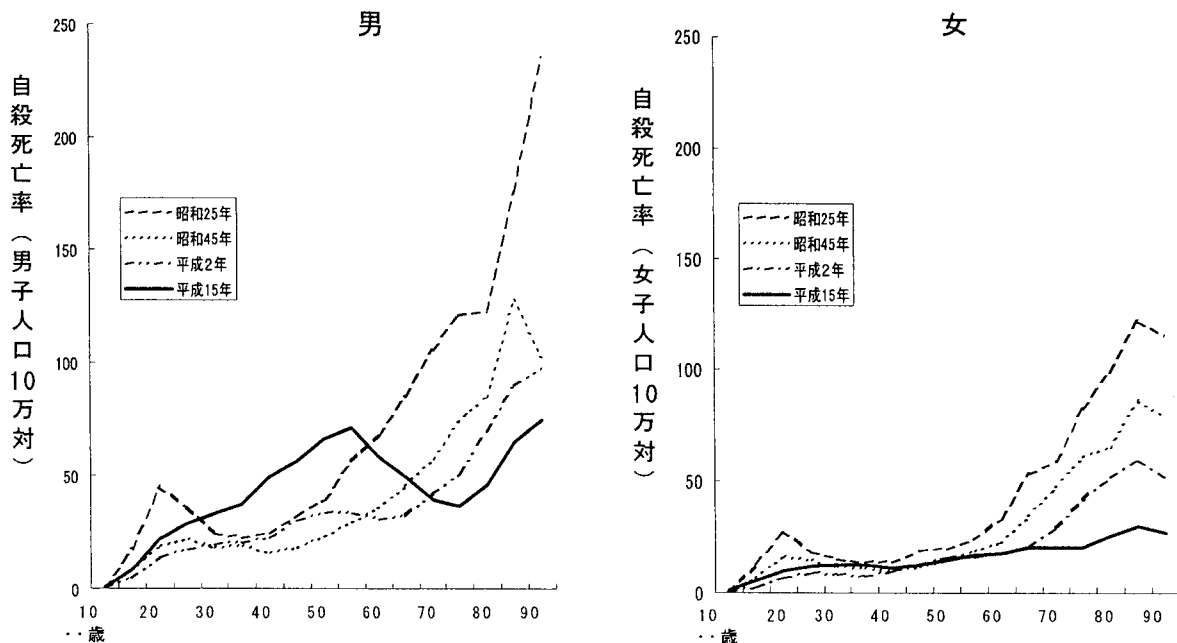
- 1 年次推移をみると昭和30年前後、昭和60年前後に山があり、現在は平成10年から始まる第3の山で最も高い

自殺死亡数の年次推移



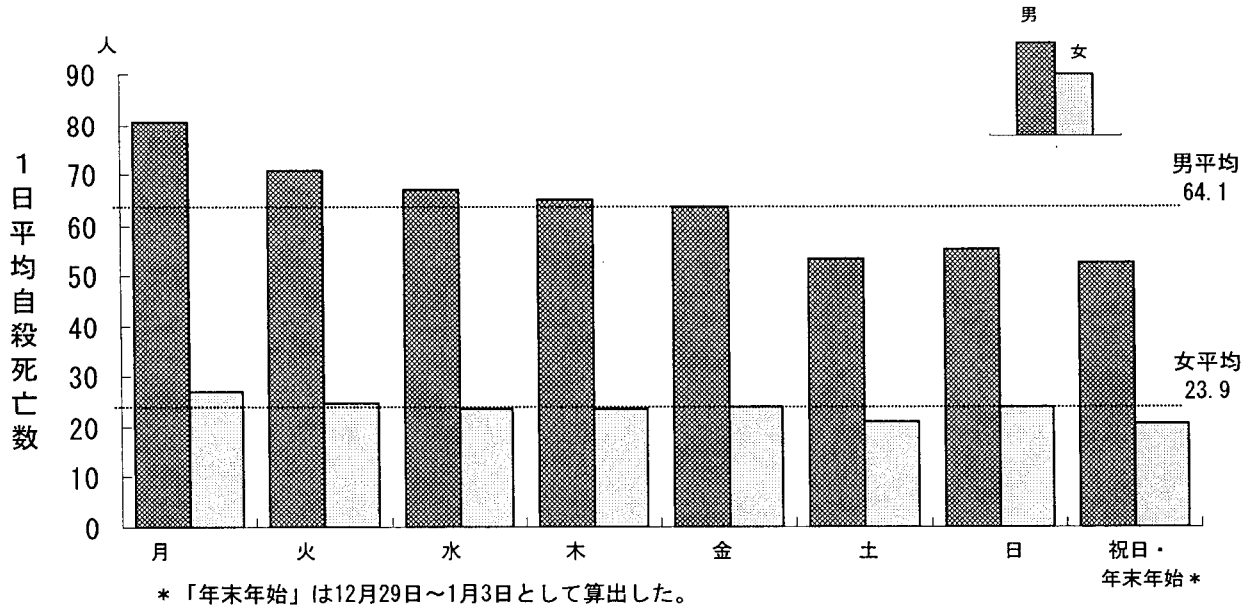
- 2 年次別年齢階級別にみると、平成15年には男の50歳代をピークとする大きな山が形成され、高齢者の自殺死亡率は著しく低下

性・年齢(5歳階級)別自殺死亡率の年次比較



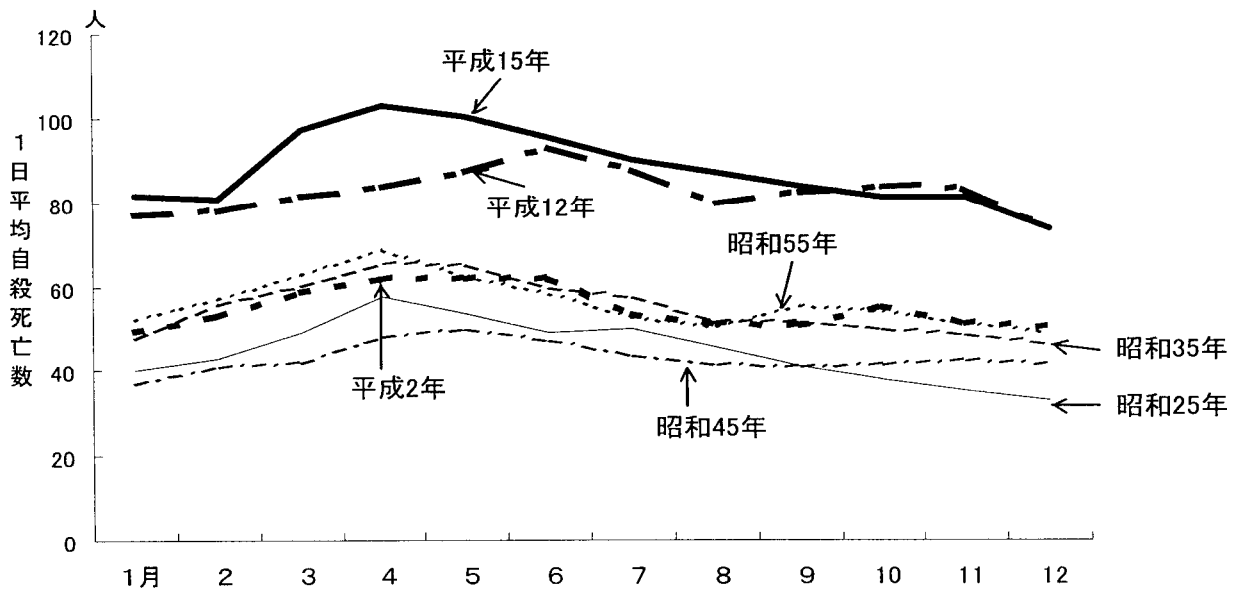
3 曜日別にみると、「月曜日」が最も多く、「土曜日」が最も少ない

性・曜日別 1日平均自殺死亡数 -平成15年-



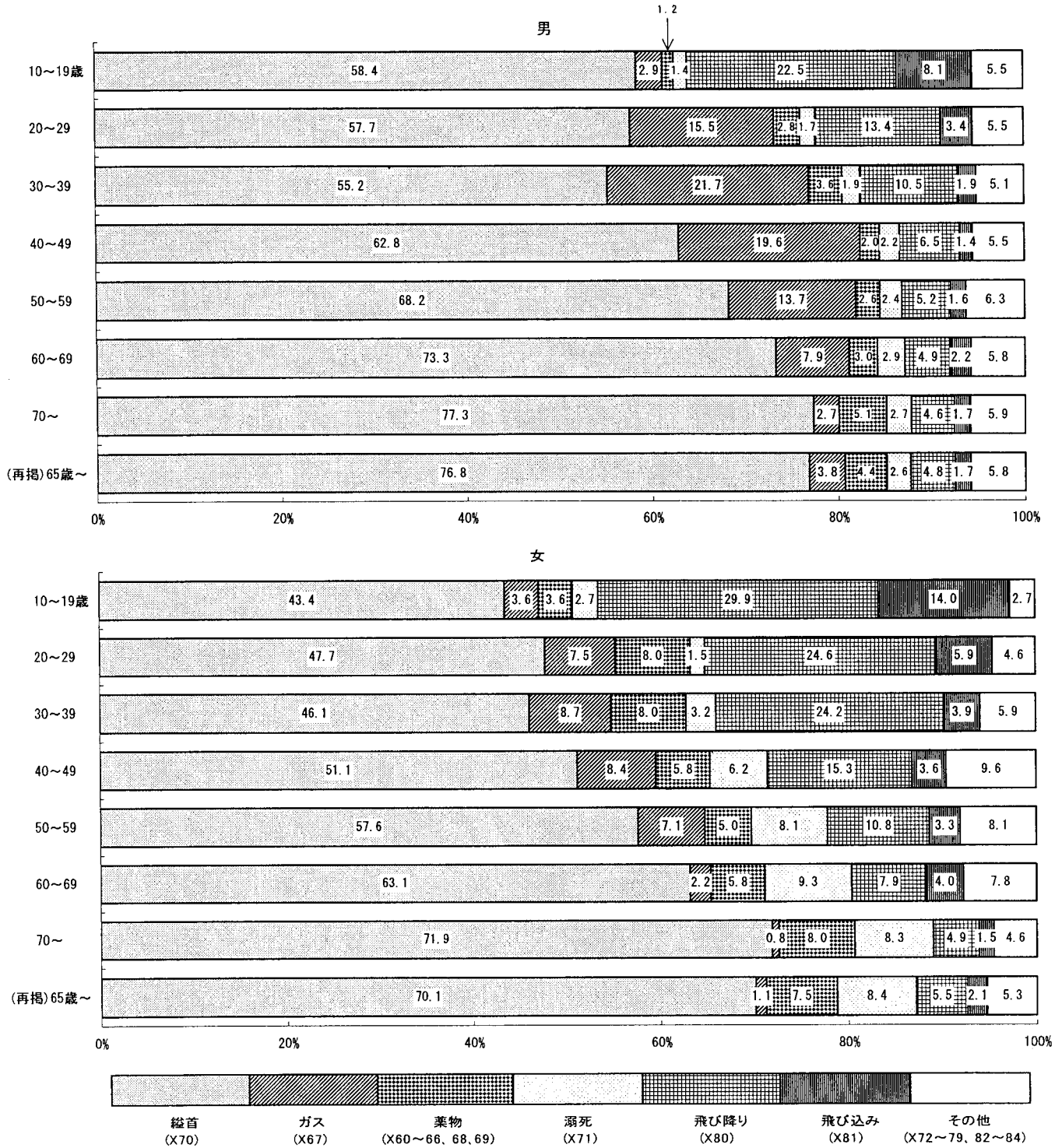
4 月別にみると、多くの年で4・5月がピーク

死亡月別 1日平均自殺死亡数の年次推移



5 手段別の構成割合をみると、男女別、年齢階級別にかんがりの違いがみられる

性・年齢(10歳階級)・手段別自殺死亡数構成割合 —平成15年—



自殺死亡統計の概況

人口動態統計特殊報告

目次	
1. 自殺死亡統計について	1
2. 自殺死亡の年次推移	
(1) 自殺死亡数の年次推移	2
(2) 総死亡率(人口10万対)及び自殺死亡率(人口10万対)の年次推移	2
(3) 年齢調整死亡率の年次推移	3
3. 年齢別にみた自殺	
(1) 性・年齢階級別自殺死亡率(人口10万対)の年次比較	4
(2) 性・年齢階級別死亡数に占める自殺死亡数の割合、自殺の死因順位	5
4. 死亡曜日・時間別にみた自殺	
(1) 死亡曜日別にみた自殺	6
(2) 死亡時間別にみた自殺	7
5. 月別にみた自殺	8
6. 配偶関係別にみた自殺	9
7. 手段別にみた自殺	
(1) 年次比較	10
(2) 年齢階級別	11
8. 都道府県別にみた自殺	
(1) 自殺死亡数・自殺死亡率・自殺年齢調整死亡率(人口10万対)	12
(2) 手段別自殺死亡数割合	13
9. 職業・産業別にみた自殺	14
10. 平成6年～平成15年の状況	
(1) 年齢別にみた自殺	16
(2) 手段別にみた自殺	17
11. 諸外国の自殺死亡率	18
12. 統計表	
第1表 総死亡数・死亡率(人口10万対)・自殺死亡数・死亡率(人口10万対)の年次推移	20
第2表 性・年齢(5歳階級)別死因順位	22
第3表 性・手段別自殺死亡数構成割合の年次推移	23
第4表 性・都道府県別自殺年齢調整死亡率(人口10万対)の年次推移	24
13. 参考	
観察対象の範囲	25
自殺の分類及び内容	26
比率の解説	27
警察庁「自殺の概要」	
参考表 性・年齢・原因・動機別自殺者数 —平成15年—	28

厚生労働省大臣官房統計情報部
人口動態・保健統計課

電話：代表 03-5253-1111
担当係：計析第一係(内線7470)

この資料は、厚生労働省ホームページに掲載しています。
掲載場所：「統計情報」→「最近公表の統計資料」
→「自殺死亡統計の概況」

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyuu/suicide04/index.html>

1. 自殺死亡統計について

自殺死亡統計は、毎年公表している人口動態統計をもとに、時系列分析など自殺による死亡の状況について分析を行い、人口動態統計特殊報告として取りまとめたものである。なお、この「自殺死亡統計」は、昭和52(1977)年、昭和59(1984)年、平成2(1990)年、平成11(1999)年に続いて今回で5回目であり、その概要は、以下のとおりである。

刊行	年	期 間	調 査 項 目 ・ 内 容
1	昭和52年 (1977)	大正9年～昭和49年を 中心として分析	自殺死亡数・率の年次推移、年齢階級別、 手段別、職業・産業別、都道府県別、国際比較
2	昭和59年 (1984)	昭和50年～昭和57年を 中心として分析	自殺死亡数・率の年次推移、年齢階級別、 死因順位、死亡月別1日平均、手段別、 配偶関係別、都道府県別訂正死亡率、 国際比較
3	平成2年 (1990)	昭和58年～昭和63年を 中心として分析	自殺死亡数・率の年次推移、年齢階級別、 死因順位、死亡月別1日平均、手段別、 配偶関係別、職業・産業別、 都道府県別訂正死亡率、国際比較、 参考表に警察庁の「自殺の概要」資料を掲載
4	平成11年 (1999)	平成元年～平成9年を 中心として分析	自殺死亡数・率の年次推移、年齢階級別、 死因順位、死亡月別1日平均、手段別、 配偶関係別、都道府県別年齢調整死亡率、 国際比較 参考表に警察庁の「自殺の概要」資料を掲載
5	平成17年 (2005)	平成6年～平成15年を 中心として分析	自殺死亡数・率の年次推移、年齢階級別、 死因順位、曜日別、時間別、死亡月別1日平均、 配偶関係別、手段別、都道府県別、 職業・産業別、平成6年～平成15年の状況、 国際比較 参考表に警察庁の「自殺の概要」資料を掲載

表 章 記 号 の 規 約

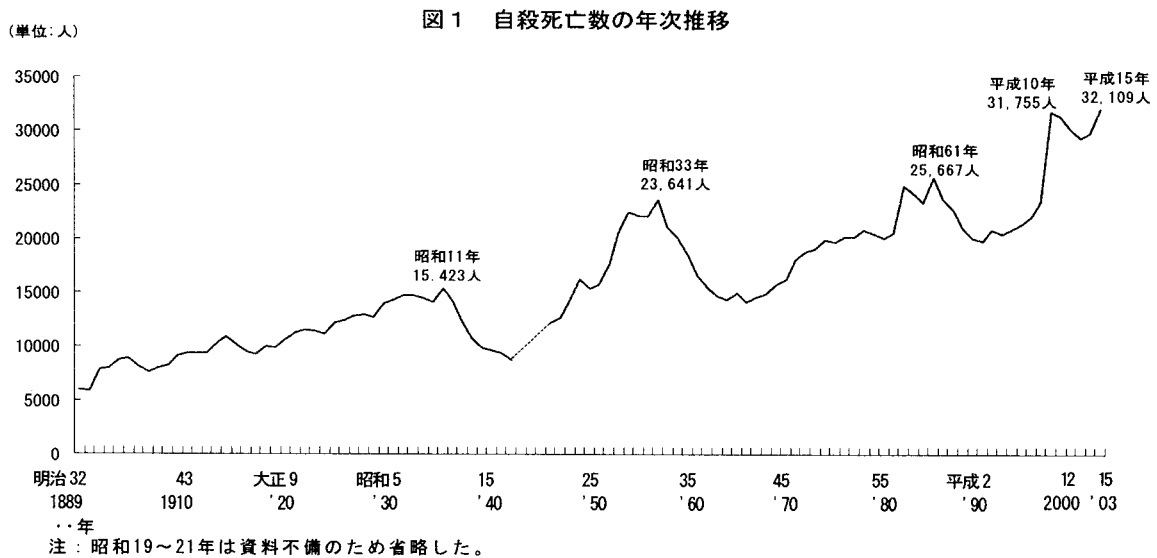
計数のない場合	—
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…

2. 自殺死亡の年次推移

(1) 自殺死亡数の年次推移

自殺死亡数の年次推移をみると、明治32年の5,932人から昭和11年の15,423人までは増加傾向を示しているが、昭和12年から戦時中まで減少傾向となっている。

戦後は、再び増加傾向となるが、戦前と異なり、増減を繰り返し、過去2回の高い山があり最近も1つの山を形成している。1番目の山は毎年2万人を超えた昭和29年～35年であり、2番目の山は毎年2万3千人を超えた昭和58～62年である。最近の山は3万人前後で推移している。(図1、表1、統計表第1表)



(2) 総死亡率(人口10万対)及び自殺死亡率(人口10万対)の年次推移

総死亡率をみると、戦後急激に低下して昭和30年代以降は700前後で推移していたが、近年高齢化の進行に伴い徐々に高くなり、平成15年には800を超えている。

自殺死亡率をみると、総数と男については、自殺死亡数と同様に3つの山を形成しており、平成15年の男は38と最も高くなっている。(図2、表1、統計表第1表)

図2 総死亡率及び自殺死亡率の年次推移

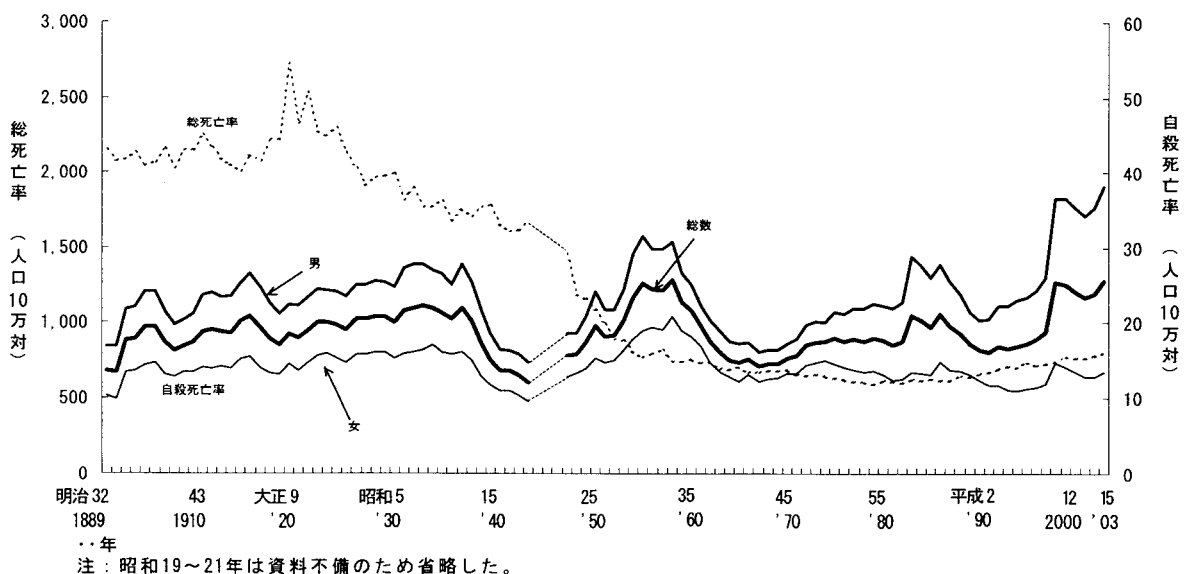


表 1 性別自殺死亡数・自殺死亡率（人口 10 万対）の年次推移

	昭和25年 (1950)	30 ('55)	35 ('60)	40 ('65)	45 ('70)	50 ('75)	55 ('80)	60 ('85)	平成2年 ('90)	7 ('95)	12 (2000)	15 ('03)
	死 亡 数											
総 数	16 311	22 477	20 143	14 444	15 728	19 975	20 542	23 383	20 088	21 420	30 251	32 109
男	9 820	13 836	11 506	8 330	8 761	11 744	12 769	15 356	12 316	14 231	21 656	23 396
女	6 491	8 641	8 637	6 114	6 967	8 231	7 773	8 027	7 772	7 189	8 595	8 713
	死 亡 率 (人口 10 万対)											
総 数	19.6	25.2	21.6	14.7	15.3	18.0	17.7	19.4	16.4	17.2	24.1	25.5
男	24.1	31.5	25.1	17.3	17.3	21.5	22.3	26.0	20.4	23.4	35.2	38.0
女	15.3	19.0	18.2	12.2	13.3	14.6	13.1	13.1	12.4	11.3	13.4	13.5

(3) 年齢調整死亡率の年次推移

年齢調整死亡率を年次別にみると、全死因では、男は平成 12 年が昭和 25 年の 3 分の 1 程度、女は 4 分の 1 程度となっているが、自殺でみると、男は昭和 25 年と平成 12 年が同程度であるのに比べ、女は半分程度になっている。

また、男女の年齢調整死亡率を比較すると、昭和 25 年には「全死因」は男が女の約 1.3 倍、「自殺」は約 1.7 倍であったが、徐々に男と女の差が大きくなり、平成 12 年には「全死因」では男が女の約 2 倍、「自殺」では男が女の約 3 倍となっている。

(表 2)

表 2 年齢調整死亡率（人口 10 万対）の年次推移

	昭和25年 (1950)	30 ('55)	35 ('60)	40 ('65)	45 ('70)	50 ('75)	55 ('80)	60 ('85)	平成2年 ('90)	7 ('95)	12 (2000)	
全死因	男	1 858.6	1 482.0	1 476.1	1 369.9	1 234.6	1 036.5	923.5	812.9	747.9	719.6	634.2
	女	1 457.8	1 099.3	1 042.3	931.5	823.3	685.1	579.8	482.9	423.0	384.7	323.9
自殺	男	35.1	38.5	30.0	21.8	20.6	24.1	24.3	26.9	20.0	21.3	30.7
	女	20.7	22.4	20.6	14.4	14.7	15.6	13.4	12.5	10.8	9.3	10.7

注：年齢調整死亡率の基準人口は、昭和60年モデル人口である。